

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2692600071		
法人名	社会福祉法人 清和会みわ		
事業所名	グループホーム すこやかの家		
所在地	京都府福知山市三和町友淵小字大原野79-132		
自己評価作成日	平成23年2月28日	評価結果市町村受理日	平成23年5月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2671900252&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kai gosip/infomationPublic.do?JCD=2671900252&amp;SCD=320</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅渡町83-1 ひと・まち交流館京都 1F		
訪問調査日	平成23年3月19日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然に恵まれた所に立地し、周りに畑や果樹が栽培され、時には最近、野生の猿や鹿を目の前で見られ、昔を懐かしんで頂く環境にあります。今年度は個別ケアに重点をおき、マンツーマンで向き合いその人を知る機会を作り馴染みの関係づくりに力を入れてきました。出来るだけ寄り添うケアを目指しました。残存機能を生かし張り絵や、裁縫、食事づくりをして頂きました。家族会では一緒に外出して頂きカラオケに行くなど家族交流を深めました。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

福知山市の西部、小高い丘の上で特養やデイサービスがある広い敷地内に建てられた平屋のグループホームである。利用者はウッドデッキから畑に出て野菜を育て、山から降りてくる猿や鹿を見ながら、季節を楽しむ暮らしをしている。買物や美容院、文化施設などに車で出かけて地域の生活を続け、夏祭りには地域住民との交流ができる。家族は墓参りに利用者連れて行ったり、行事に参加するなど、協力的である。地元産の食材による利用者手作りの食事、季節ごとの外出、毎日でも夜間でも入れる風呂等とともに、2、3人ずつの個別外出が積極的に取り組まれている。看護師が毎月サマリーを書いて医師との情報交換をしていること、同行した職員が受診報告書を書き、情報共有していること、ヒヤリハット記録とその後の検討結果の記録が的確であること等がこのホームの優れている点である。さらに高いレベルのグループホームらしいケアを求めて、「利用者のしたいことをどう引き出すか」「したいことをどう実現するか」「自分ならこうしてほしい」等について、初めて職員アンケートを実施し、結果を今後の活動に生かす予定である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームのケア理念づくりに取り組み、理念を創っている。事務所に理念を掲げ毎日見ることにより意識づけている。また、センター方式を活用し、理念の実践に努めている。	法人の理念を踏まえてグループホームの理念「利用者個々人の生活歴を大切に、自分らしい暮らしをつくるケアを目指す」を策定している。利用者、家族には契約時に、地域の人には運営推進会議等で説明している。毎年度事業計画の検討の際に、理念に関しても見直している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の付き合いを日常的に出来る環境づくりに苦慮している。隣接の特養、デイ利用者との付き合いや祭り、初詣、等ではできる限り交流するよう心がけている。ボランティアの傾聴訪問、読み聞かせボランティアもお願いしている。	隣接のデイサービスの利用者が遊びに來たり、傾聴ボランティアが來訪する。小学校の1、2年生が來訪し、歌や合奏を聞かせてくれる。利用者は買物や行きつけの美容院、丹波生活衣館の見学、京丹波弁天祭の花火見物等、住民と交流している。夏祭りには家族や地域の人が大勢集まり、利用者の楽しみである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域交流や地域支援、貢献について話合っている。地域の行事などに制作展示を行っている。自然な地域交流と施設の役割を考え地域の介護者等を対象に認知症を知る講座を開催した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は、隔月に実施し、状況報告や話し合いを行っている。外部評価や実地指導などの結果を報告する中で検討し、サービス向上に努めている。利用者様との交流として食事会や施設見学を実施また、認知症サポーター養成講座などの実施。	利用者、家族、区長、小学校校長、保育園園長、教育委員会、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、市社協職員がメンバーとなり、隔月に開催し、記録を残している。ホームからヒヤリハットも含めて、行事等の写真を見せながら報告をし、利用者との交流もしてもらいながら、意見交換している。地域の情報をもらって出かけたり、保育園との交流ができるようになったりしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議への参加、運営に関する意見や協議、成年後見制度等の講義等を随時行い、サービスの質向上に取り組んでいる。	市とはふだんから連携しており、市が開催する認知症サポーター研修の講師や寸劇を引き受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	部内研修やサービス向上・身体拘束廃止委員会等で高齢者の人権と介護を中心に高齢者虐待防止法の学習を実施、虐待の防止に努めている。	「身体拘束をしない」という方針を契約書に明記し、マニュアルを作成し、職員研修を実施している。玄関ドア、2カ所の裏口、リビングからウッドデッキへのドア等、すべて施錠されていない。事故やヒヤリハット事例は記録を残し、職員会議で要因分析し、再発防止に努めている。	

京都府 グループホーム すこやかなの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部内研修やサービス向上・身体拘束廃止委員会等で高齢者の人権と介護を中心に高齢者虐待防止法の学習を実施、虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市、市社協と連携し、法人内での職員研修の実施。運営推進会議での話し合いなどを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接による説明を行い、納得と理解を図る努力をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や個々に意見、苦情を聞き、その都度会議で検討し、対応している。	家族に満足度調査を実施したものの、苦情や要望はなく、満足している意見であった。月2回から3カ月に1回まで家族の面会は多く、家族会は年4回実施している。家族会の際には法人の取組や事業計画、ホームの状況報告をし、行事のスライドを見せたり、みんなでカラオケに出かけたりしている。家族には年4回の広報誌に個別の通信を書いて送付し、利用者の写真はアルバムにして見せている。法人の夏祭りや運動会には家族も参加し、手伝ってくれる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループ会議を持って協議しながら運営している。	毎月職員会議を開催し、運営やケースの検討、外部研修受講者の伝達研修をしている。職員は業務に関する事など、意見を交わしている。管理者等は職員の異動や研修受講の希望を聞く姿勢をもっている。アンケートをとり、職員が興味関心をもっているテーマ等をまとめ、委員会で深めていっている。八木町、京丹後市、美山町等のグループホームと職員の交換研修を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、スタッフの勤務状況や思いを面談やアンケート等で把握するとともに、キャリアパスにより人材育成と合わせた制度整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、年度ごとに研修計画を立て実施しているほか、府の研修等部外へも派遣している。又、常勤者の会議等でケアプラン、センター方式の研修、現場での実技研修などを行っている。		

京都府 グループホーム すこやかなの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの協議会での交流や兄弟施設であるグループホームとの交流、他事業所での現場実習等を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの生活に馴染むようできる限りご本人を受け止める努力をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訪問を出来るだけ促すとともに家族会の開催を3ヶ月毎に行い、ケアプランの作成、説明、相談の機会をつくっている。面会時には日常の様子などを話す様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接の聞き取り調査後、本人、家族にとって本当に今、入所が必要なのか、他のサービスが適切なのか検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	畑仕事や昔の暮らしの知恵や出来事など職員が知らないことを教えて頂きながら普通の生活に活かしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会時には本人の状況等を伝えたり、年4回の家族会では利用者、家族を交えての楽しい場となっている。年4回の広報紙発行に本人の状況や暮らしぶりなど報告し、月1回担当者から手紙を出している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスに馴染みの人が来られた時などに面会に来られている。希望に応じてお墓参りに行ったり、昔の思い出の場所に出かけている。	「息子と家が気になる」という希望により自宅に同行すると利用者は仏壇で手を合わせている。夫の思い出の場所に行きたいという希望により、大江町にある夫の絵が展示してある館や夫とデートで食事をした料亭で食事をしている。家族の声が聴きたいという利用者に電話の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い利用者同士が話したり、一緒に過ごせるような場をつくったり、お互いのお部屋に入り会話出来るよう声掛けしている。		

京都府 グループホーム すこやかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養との交流を持ち、入居者様と以前入居されていた方との関係を続けてもっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の活用により本人の意向等把握しようと努めている。家族を交えて話し合いをしている。	管理者とケアマネジャーが利用者や家族と面談し、医療情報、介護サービス利用情報、家族状況、ADL、経過等を聴取し、記録に残している。入居後センター方式のシートを使用して、詳細なアセスメントをしている。福知山市生まれ、3人兄弟の長女、裁縫の仕事、30年間機織していた等々の生活歴とプライドが高い、穏やか等の性格や音楽、短歌、運動は苦手等、趣味や好きなことを聴取し、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員全員が会話の中から生活歴、思いを把握しようとしている。家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々にあった生活をして頂くために、会話の中から本人の思いや、状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族様の希望を聞き、センター方式に基づき職員全員が意見交換する中でケアプランを作成している。	ケアマネジャーが利用者・家族の意向を踏まえて担当職員と共に、その人らしい暮らしの介護計画を作成している。介護計画の評価は項目にそって、担当職員とともに毎月実施しており、またカンファレンスは3か月ごとを実施しているものの、利用者の状態変化に対応した介護計画の見直しがない。個人記録は介護計画にそった内容ではなく、時間を追って利用者の様子を書いている。	介護計画は生活歴等の情報を反映してその人らしく具体的なものにすること、個人記録は介護計画の項目にそって介護の実施とそのときの利用者の表情や発言、考察を書き、モニタリングの根拠とすること、モニタリングと再アセスメントに基づいて介護計画の見直しを実施することの3点が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、会話の内容なども詳しく書くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特養やデイサービスとの交流を持っている。3ヶ月毎に見直しを行い家族の意見を聞きながら協力を求め検討し取り組んでいる。		

京都府 グループホーム すこやかなの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の学校との交流、文化祭、福祉祭り等への参加出品、催しに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院に家族様と共に受診して頂き、必要に応じて職員も同行する。送迎はできるだけ家族様にして頂いてる。	かかりつけ医への受診は家族が付き添っており、事情によっては職員が同行する。看護師がサマリーを書き、医師との情報交換しており、受診同行した職員は「受診報告書」により、職員間の情報共有をしている。認知症専門医と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護による日常の健康管理を支援するとともに、24時間連絡、対応できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院側の相談員や医師と話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・看取り指針を定め、家族にも説明・同意を得るなどの取り組みをすすめている。	「グループホームすこやかなの家 終末期における対応指針」を策定し、利用者や家族に説明し、意向を確認している。その際の状況により、判断するという人が多く、特養等の申込をしている人もいる。マニュアルの作成とともに職員研修を実施している。事例はまだない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を職員全員が受け、緊急時に対応出来るようにしている。事故マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2月に1回、避難訓練を行っている。地元の消防団が警備に回られる。	火災に関する設備は整っており、備蓄を準備している。火災訓練は年5回、防災訓練は1回、夜間想定も含めて実施しており、消防署の協力があり、地域住民の参加がある。福知山市とは災害時に施設の連絡協議会を通じて受け入れをしている。敷地内はヘリコプターの発着が可能である。	

京都府 グループホーム すこやかなの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの対応については十分に注意をはらっている。馴染みの関係づくりもあり場合によっては馴染みの言葉で会話する。	トイレと居室は中から鍵をかけることができる。トイレ誘導の声かけはプライバシーに配慮している。飲み物はお茶、こぶ茶、レモンティ、葛湯等を用意しており、利用者が選んでいる。朝起きて着るものも選択している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂く様にしているが、自己決定出来ない時は職員側で決めてしまっている事がある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課は決まり、本人のペースで過ごしてもらっているが、希望に添えない時がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧など希望される方には、支援している。美容については家族様と行かれる時や施設に来られる移動美・理容を利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中から嗜好を聞き食事作りに参加して頂き、支度から味付けまでの一連を通して作って頂き片付けまでして頂いている。	同法人の特養の管理栄養士がたてた献立を利用しており、カロリー値と栄養バランスの把握をしている。時には利用者の希望により、献立を変えることもある。地域性と季節感のある献立である。食材は買物に行ったり、配達してもらっている。調理から食器洗いまで、利用者とともにしており、味付けよく1品をつくり上げる利用者もいる。職員も利用者ともに食卓につき、会話が弾んでいる。食事と水分の摂取量を記録している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、管理栄養士が管理し、水分量の把握に努め、嗜好に合わせて飲み物を飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯については、毎晩洗浄剤で清潔を保っている。出来ない方については職員が介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て定期的に声掛けし、排泄誘導を行ったり、タイミングをつかみ誘導している。	トイレでの排泄をという方針のもと、声かけしている。排泄について自立している利用者が多く、チェック表をつけている。入居後に紙パンツから布パンツに改善した利用者もいる。水分摂取や運動により、自然な排便を支援し、記録をとっている。	

京都府 グループホーム すこやかなの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクレーションを通して体を動かす取り組みや、天気によっては、散歩に出掛けたり、水分補給を促し、水分量の把握に努めている。訪問看護と相談し薬の調整をして頂いている方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日希望を聞き、要望に沿うように対応し夜間浴も取り入れている。	広めの浴室に個浴を置いている。利用者は隔日に入浴しており、希望する人には毎日でも、また夜間でも支援している。職員が利用者の希望を聞いて銭湯に同行している。ゆず湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングには共用のソファやこたつがあり自由に利用し、居室には個人のこたつや、ソファ等でくつろがれています。家族様と一緒に環境整備して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪看より薬の内容、目的、注意事項等説明を受け確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれにあった役割や、自分から散歩に行かれたり、天気の良い日には布団を自ら干されています。それぞれにあった役割や個々の得意な分野で楽しみながらされている。(張り絵・裁縫)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別に外出計画し、食事や買い物を楽しんでもらっている。家族様にも協力を依頼し思い出の場所に出掛けたり、お墓参りに行く。グループホーム全員で外出する事もある。	利用者は裏の畑やホームのまわりを散歩し、観音像を拝んでいる。日常の買物、美容院等は2,3人を連れて車で出かける。福知山城の桜、昔の脱穀機や水車のある篠山市のお菓子の城、オの神の芝桜や藤、市島町の菖蒲、福知山市の丹波生活衣館、京丹波町の弁天祭り、自然公園での菊花展、廣谷神社の初詣等々、季節ごとの外出は毎月のように行っている。利用者の希望によってお墓参りに同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と外出される時は、一緒に買い物される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人専用の携帯電話を持たれている。電話がかかってくると自由に話して頂いている。家族様や、知人から手紙が届いている。		



京都府 グループホーム すこやかの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、季節の花や、昔馴染みの物を置き、畳コーナーにはコタツを設置している。リビングからは外の景色が見られるようにし季節を感じて頂いている。	窓からの外光は二重のカーテンで調節し、灯りは屋光色を使っている。職員の声の大きさやテレビの音には十分注意している。玄関を入ると正面に大きなケースの雛飾り、その横の障子の屏風の前に大きな壺に梅の枝を生けている。リビングの大きなドアから山や畑を見ることができる。テレビの前のホームコタツ、本棚の本や新聞、畳の部屋にある洗濯物等、季節感と生活感があるリビングとなっている。廊下にベンチや椅子を置いて、利用者の居場所をつくっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方達が集まれるコーナーを設け楽しく会話されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔馴染みの物(鏡、化粧品、時計、タンス、アルバム)を置き居心地の良い空間作りを家族様と相談しながらおこなっています。	ベッド、洗面台が備え付けられた洋室に、利用者はタンス、整理ケース、椅子、テーブル等、馴染みの家具を持ち込んでいる。絨毯をしいてホームコタツを置いている部屋は、こじんまりと落ち着いたもので利用者のたまり場になっている。結婚したてのころの写真、一族の写真、亡夫の写真等を写真立てに入れて飾っている人、仏壇をもってきている人等、自分の部屋としての設えである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	畳の感触を味わって頂いたり、こたつを使用しくつろいで頂いたり、廊下には椅子を設置し、休んで頂けるようにしています。自分で出来ることはして頂き、個別対応で生活して頂けるよう努めている。		